

普及活動の成果

課 題 名	茶経営組織と茶園の再編	振 興 局 名	県北振興局
活 動 対 象	JAながさき西海茶業部会	実 施 期 間	平成30年4月～平成31年3月

【対象の概要】

JAながさき西海茶業部会は、部会員70名、栽培面積130haで、佐世保市世知原町、松浦市、佐々町の3地区部会で構成されており、自販農家が多い。

【課題設定の背景】

- 1 県北地域の茶業は、個人の製茶工場経営が大半を占めている。製茶工場の老朽化や担い手の高齢化も進んでおり、製茶機械の更新や労力、コストの削減が必要である。また、経済樹齢を超えた茶園が増加しており、計画的な改植が必要である。GAPへの認識は高まっており、取り組みを進めている。
- 2 県北地域の茶生産者は、茶の試飲販売会、「お茶の美味しい淹れ方教室」等を開催し、茶のPR、消費拡大を図っている。一方で、耕作放棄茶園も拡大しつつあり、担い手への茶園集積を急ぐ必要がある。

【活動目標】

- 1 地域の現状や意向を把握するためのアンケート結果をもとに地域で検討し、産地ビジョンを描く。個別経営相談会で、法人化等を支援する。GAPへの取組を支援し、茶栽培加工技術、新改植技術を徹底する。
- 2 規模拡大を希望する担い手や法人の育成、茶のPRにより、県北地域の茶業の活性化を図る。また、担い手への農地集積を推進し、耕作放棄地解消と担い手の規模拡大を行う。

【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】

- ・JAながさき西海、県北振興局で連携して茶の栽培・加工技術指導を行った。
- ・県北地域農業振興協議会茶部会（JAながさき西海、佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町、県北振興局）で連携してGAPへの取り組み支援、担い手育成支援、茶のPR事業等に取り組んだ。

【活動経過】

- 1 茶業経営の安定化
 - (1) 法人化を目指す茶農家1戸に対して経営相談会を実施し、オーガニックマルシェや農福連携等を紹介した。JAながさき西海茶業部会（以後、茶業部会）が行った産地アンケートのとりまとめを支援した。
 - (2) 茶業部会で、GAP実践のための研修会を開催した（写真1）。茶を生産する法人組織に対し、民間企業・佐世保市・JA担当者とともにリスク分析・評価を実施し、JGAP認証の取得支援を行った。
 - (3) 茶業部会に対し、栽培管理指導を適宜行い、地区茶園巡回指導を2地区（世知原、松浦）で行った。10月には3地区合同での巡回指導を新たに開催した（写真2）。
- 2 担い手の育成支援
 - (1) 規模拡大意向のある茶生産者と農地の集積等について個別に検討を行った。
 - (2) 担い手と協力し、茶の消費拡大PRを行った。「いい葉は急須day」（写真3）では試飲販売や、消費者の茶品種に対する嗜好調査をした。国際大学で行った「キッズキャンパス」では、小学生にお茶の淹れ方教室や茶種による味や香りの違いを体感してもらった。茶生産者が高校生を対象に行うお茶の淹れ方教室を支援した。日本橋長崎館で「長崎玉緑茶フェア」を開催し（写真4）、県北地域産のお茶と、お茶を使って新しく開発したお菓子のPRや消費者調査を行った。

【普及活動の成果】

- 1 茶業経営の安定化
 - (1) 経営相談会をした1戸は、無農薬有機栽培という特徴を活かした販路拡大のために有機JAS認証取得を目指すことを決め、オーガニックマルシェへの出店、新たなティーバッグ商品の開発、農福連携による雇用に取り組んだ。茶業部会が行ったアンケートの結果、規模拡大希望20%、縮小・中止希望20%、後継者が就農（予定含む）している農家30%であった。
 - (2) 茶業部会において、「GAPに関する認知度調査」の正解率が前年と比較し64.7%から71.4%に高まった。茶を生産する法人組織は、3月にJGAP認証取得審査を受ける予定である。
 - (3) 各地区の茶園巡回では部会員が互いの茶園を実際に見ながら検討して、茶園管理方針を決定した。3地区合同の巡回では、各産地の特徴を見ることで研修効果が高まった。

2 担い手の育成支援

- (1) 規模拡大意向農家へ2.6haの農地集積を行った。
- (2) 茶のPR「いい葉は急須day」では、品種に対する消費者の嗜好をアンケート調査（250人）し、「おくゆたか」や「かなやみどり」など、「やぶきた」以外の品種が好評であった。「キッズキャンパス」では、20名ほどの小学生親子にお茶の淹れ方や茶種の違いを知ってもらうことができた。日本橋長崎館で開催した「長崎玉緑茶フェア」でのアンケート調査（50人）で、首都圏消費者の嗜好をつかんだ。

【対象の声】

振興局の活動、普及指導員の指導内容は理解している。気象や病害虫の発消長の情報等、大変役に立っている。また、毎月1回開催される現地指導で技術向上し、喜んでいるが、部会員の参加がやや少なく、今後どのようにしたら参加者が増えるか検討したい。



写真1 GAP研修会



写真2 3地区合同茶園巡回指導

【今後の課題】

- 1 茶業経営の安定化 (1) 経営相談会の継続。茶業部会の産地ビジョン検討会開催の支援。
(2) GAP取り組みの推進。 (3) 3地区合同での茶園巡回の開催。
- 2 担い手の育成支援 (1) 産地ビジョン検討、マップ更新の継続。 (2) 茶PRの取り組み支援。

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

- 1 茶業経営の安定化
- (1) 経営相談をした1戸には、無農薬有機栽培の特徴を活かすための有機JAS認証取得、販路拡大に向けた商品パッケージづくりを支援。茶業部会に対しては、更に具体的な産地ビジョンを早急に描くよう支援。
- (2) GAPの推進には関係機関の理解が必要となるため、GAP実践のための情報を収集し、提供する。次年度GAP認証取得意向団体に対し、GAP実践や事業活用等について支援する。
- (3) 3地区合同での茶園巡回は研修効果が高く、これまで部会による茶園巡回をしていなかった佐々地区も含めて行うことができるので、続けて開催するよう支援する。
- 2 担い手の育成支援 茶PRの効果等を検討し、効果的なPRを支援する。

【発表・参考資料】 なし